

# 山岳友の会会報

2018年10月 第31号



第37回現地研修会（礼文・利尻）ノシャップ岬

## も く じ

第37回現地研修会（礼文・利尻）リレー寄稿（紀行）前編

1日目 北海道稚内ノシャップ岬	大江 和子	2
2・3日目 礼文島	堀内 恭子	2
利尻登山その1	熊谷 久	3
礼文利尻研修 替え歌（CobaQ）		5
第38回現地研修会（伊吹山）	報告 三浦 方也	6
2018 上高地乗鞍キッズキャンプ	報告 小林 久雄	9

## 第37回現地研修会（礼文・利尻）リレー寄稿（紀行）前編

### —1日目 北海道稚内ノシャップ岬—

大江 和子

大江は5:30発車で岡山空港に向かう。岡山空港から7:10発羽田空港行き、8:25羽田到着。この時間お値段が安いので。集合は12:00 2F 時計台①に、時間がたっぷりあるので早めにお昼のランチを済ませます。

13:05 羽田発 14:55 稚内着。大江は岡山から羽田経由稚内行きだったので、皆様と席は離れていました。隣には中国語を話す方が「礼文島旅行計画」と書いてある計画書を見ながら話が弾んでいました。

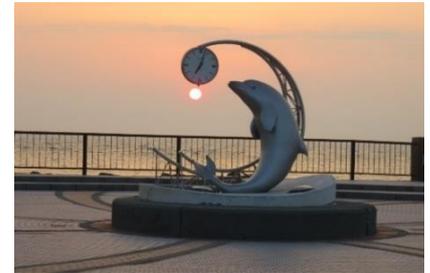
稚内空港からは貸切バスで新緑の中をサロベツ湿原へ、湿原の入口にある環境省の案内施設「サロベツ湿原センター」では、湿原の成り立ちや、最新の自然情報を写真パネルや映像で知ることができ、湿原内を巡る1周約1kmのバリアフリー木道を歩くと、雄大なサロベツの自然を満喫できました。



晴れていればこのような景色（左の写真）が見られたのでしょうか、しかし曇り空で利尻富士は見えませんでした。お花もミツガシワ、ワタスゲ、エゾカンゾウはつぼみが多くみられました。これからこの湿原を黄色に染めることでしょう。

泥炭採掘の歴史の標識があり、近くに深さ4mの池がありました。

16:50 サロベツ湿原を出てノシャップ岬へ、途中エゾシカが昆布番屋近くの空き地で草を食べているのをみて驚いた。ノシャップ岬近くには自衛隊稚内分屯地があり、日本で二番目に高い灯台がありました。18:00 小さなホテル燈に到着。ノシャップ岬は美しい夕日が見ることのできるビューポイントです。



### フラワートレッキング礼文島・利尻島 —2・3日目 礼文島—

堀内 恭子

大好きな北海道。今まで何回も訪れています。

花の浮島礼文島へは、23才の時友人とユースの仲間と共に西海岸を8時間かけて歩いています。そして海からそびえ立つ利尻山にいつか登ろうと思っていました。夫と登った利尻山。楽しい思い出です。

6月7日、5時30分宿を出発。フェリーは観光客と登山客でぎっしり。2時間で礼文島香深港へ着く。スコトン岬の登りは強風で吹き飛ばされそうです。でも風に耐え、キジムシロやチシマフクロウ等が咲いている。バスでスカイ岬からレブンアツモリソウの群生地へ。淡黄色のふっくらとしたレブンアツモリソウは礼文島の固有種です。でもその美しさのため盗掘され、保護柵の中にあってなんだか悲しい。



皆が待ちに待ったランチはウニ丼です。ごはんの上に甘くやわらかいウニがびっしりと乗っている。お腹がいっぱいになって、いよいよ花の道礼文林道へ。

コマドリとウグイスが鳴く。花が両側に咲き乱れる。礼文の花は大きく色が濃くて華やかだ。皆夢中で写真を撮っている。

紫のミヤマオダマキ・チシマフロウ・ノビネチドリ等  
白のエゾイヌナズナ・ネムロシオガマ・マイヅルソウ等  
ピンクのレブンユザクラ・サクラソウモドキ等  
黄のキジムシロ・イワベンケイ等



花に詳しい笹木さんのガイドがあったので、こんなにたくさんの花が見られました。ありがとうございました。

民宿「香栄丸」では、毛ガニやホッケ等豊かな海の幸をたっぷりごちそうになりました。

6月8日風が強く寒くなりそうなので、しっかりと着ていく。桃岩のまわりのササ原が風に激しくなびいています。あちこちにレブンキンバイの大きな黄色の花やクロユリ、エゾハクサンイケゲがたくましく咲いている。



利尻登山コースの5人は一足早く利尻島へ。  
宿に帰り、又、又おいしい料理をいただき、いつものように皆で飲み、大いに笑って親睦を深めました。

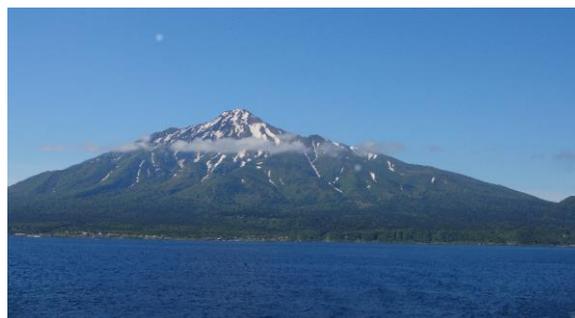
楽しい計画を立てていただいた笹木さん、信大山岳友の会の皆様お世話になりました。ありがとうございました。

## 花と樹氷の利尻山登山 ー利尻登山その1ー

熊谷 久

### 1. はじめに

利尻山は、北海道の利尻礼文サロベツ国立公園にあり、その標高は 1,721m(本峰)のコニーデ型の休火山で、利尻富士と愛称されている日本最北端の百名山である。利尻山登山には、信州大学山岳友の会 第 37 回現地研修会に参加した 16 名の内、男女 5 名がチャレンジして、無事、登頂を果たした。このレポートは、私のリフレッシュ休暇として、心身共に楽しんだ山歩きのごく一部を、所用で参加できなかった会員の皆様にお知らせするものである。



### 2. 登山口から甘露泉水

第 37 回現地研修会の 4 日目である 6 月 9 日(金)は、前夜から強い風が吹き荒れて、窓から見える木々を大きく揺らし、利尻山もすべてがガスの中でした。稚内地方は、徐々に天候が回復する天気予報だったので、これに期待していました。宿泊先のペンション“レラモシリ”からワゴン車で利尻山の登山口である利尻北麓野営場まで送っていただき、それぞれトイレなどを済ませてから 4:05 に 5 名でスタート。歩き始めて 10 分程で 3 合目の甘露泉水に到着。ここで環境省の日本名水百選に選ばれた湧水を味わってから、持参のペットボトルに詰めて再スタート。

### 3. 森林浴の森から森林限界へ

3 合目からは、森林浴の森百選に指定された山道となる。エゾマツとトドマツの原生林を相澤さんの先導でゆっくりと登っていく。4 合目を過ぎた辺りからマイヅルソウの大群落が私たち

を歓迎するかのように咲き誇っている。4 合目を過ぎると徐々にエゾマツやトドマツは姿を消し、ダケカンバがその主役となる。この辺りが森林限界となるはずだが、周囲はガスで何も見えない。登山道も勾配がきつくなり、河原のような転石で歩きにくくなってきたが、歩くペースは、ほぼコースタイム通り。6 合目からはハイマツが見られて、いよいよ森林限界を超えたことになるが、オオバナノエンレイソウの白い 3 枚の花びらに心が和む。

#### 4. 花と樹氷の利尻山

7 合目の道標に「胸突き八丁」と書かれているとおり、登山道は益々険しくなり、ジグザグの岩場の急登となる。ここを 15 分程登ったとき目に飛び込んできた景色は、ダケカンバとハイマツの幹や枝にビッシリと張り付いた樹氷である。細萱さんの「今のうちに樹氷の写真を撮っておかないと帰りには溶けてしまうよ」の言葉に促されて、バシバシとデジカメのシャッターを押しまくったが、慌てなくても良かったことが後で分かる。東側から吹き上げてくる強風は、一向に吹き止まないが、登山道は所々がダケカンバに覆われていてありがたい。7.5 合目の第二見晴台も真っ白な景色が 360 度でガッカリ。8 合目の長官山を過ぎたとき、一瞬霧が晴れて、利尻山の頂上が見えたが、これが最後となった。



#### 5. 避難小屋から山頂へアタック

8 合目の長官山を少し過ぎた辺りから 8.5 合目の避難小屋まで下り坂となる。この登山道でザゼンソウを発見。私が高原の湿地以外でザゼンソウを見たのはこれが初めてで、その可憐な姿をデジカメに記録する。避難小屋で 10 分程の休憩を取り、トイレブースを使用して携帯トイレのお世話になる。トイレブースは、磐梯山のそれと同じ形式で使い易くありがたい。避難小屋から 9 合目の道標までは、比較的整備された登山道で歩きやすく、エゾノハクサンイチゲが見られるようになった。9 合目の道標には、何と「ここからが正念場」とある。ここを 1 時間歩くのかと思うと心が萎える。相澤さん達の軽い足取りに比べて、疲労がピークとなった私は、足が思った方向に向かずに少しずつ遅れて行く。東側からの強風は相変わらずで、気がつくといんウェアの左袖に氷が付着している。気温を測る術はなかったが、多分、氷点下の世界であっただろうと思う。その中で青、白、紫色の可憐なエゾエンゴサクの群生は、利尻山からのうれしいプレゼント。

沓形登山道との合流点手前に急勾配の馬の背があり、ここでは強風で崖下に吹き飛ばされそうな恐怖を感じて、ガイドロープにしがみついて登る。この辺りから登山道は火山性の石(スコリア)で、滑りやすく歩きにくい最後の難所となった。山頂まであと僅かとなったところで一瞬、霧が晴れて利尻山で有名なローソク岩が顔を見せてくれたが、数秒でまた霧の中。私が標高 1,791m の山頂に着いた時刻は 9:10 で、コースタイムの 5 時間どおり。山頂は、残念ながら 360 度ガスの中で、秋田駒ヶ岳を思い出す強風の中。10 分程待機したが磐梯山の奇跡は再び起こることもなく、諦めて下山の途についた。



#### 6. 山頂から甘露泉水へ

山頂から 5 分程下ったところに強風を避けることができる場所を見つけて休憩。3 合目の甘

露泉水で汲んだ水を飲もうとして、ザックの左ポケットに入れていたペットボトルに手を伸ばしてビックリ。ペットボトルのキャップに氷が張り付き、飲んだ水の凍るような冷たさに震え上がった。お弁当のお握りも冷え切って食べられたものではなく、礼文島のコンビニで買っておいたアンパンがここで役に立った。登るときは、皆に遅れないよう自分なりに急いだつもりだが、下りは高山植物の写真撮影に時間を掛けてマイペースを維持。登るときに気がつかなかったイワベンケイ、ウコンウツギ、ツバメオモトを見つけては、デジカメでバシバシ撮影する。

避難小屋では先行組と合流してトイレ休憩。5人で揃って避難小屋を出発したが、足の遅い私は、8合目の長官山付近からひたすら遅れるばかり。それでも霧が晴れないかと第二展望台で待機するが、天は我らを見放した。展望台から見えるはずの礼文島や北海道本島の絶景を写真に収めて、家族に自慢しようと楽しみしていたが、潔く諦めて、ハイマツやダケカンバに張り付いた樹氷や可憐な高山植物をデジカメに記録する。先行組からは大分遅れてしまったようだが、山頂から3時間40分で甘露泉水に到着。ここでポン山登山のご一行と再会し、なぜか安堵する。登山口の利尻北麓野営場には、13:10分着。皆さん、お疲れ様でした。

最後に、今回の現地研修会を企画し、私たちを礼文・利尻に案内してくださった笹木伊都子さんと、一緒に利尻山に登った出澤さん、相澤さん、横田さん、細萱さんに心からお礼を申し上げて、今回のレポートのまとめとさせていただきます。

## 「津軽海峡・冬景色」『利尻 礼文だ ・ 友の会 』 替え歌 : CobaQ

作詞:阿久悠 作曲:三木たかし 編曲:三木たかし 唄:石川さゆり

上野発の夜行列車 おりた時から 青森駅は雪の中  
**羽田発のジェット乗って 北に旅立つ 北の大地は ワンダフル**  
北へ帰る人の群れは 誰も無口で 海鳴りだけをきいている  
**北に旅する 私たちはみんな愉快で 大空仲良く浮かんでる**  
私もひとり連絡船に乗り 聞こえそうな鳥見つめ泣いていました  
**みんなで笑顔 ジェット機に乗って 酒に酔い言葉かわし笑顔になる**  
ああ津軽海峡・冬景色  
**ああああー 利尻 礼文だ ・ 友の会 』**

ごらんあれが竜飛岬 北のはずれと 見知らぬ人が指をさす  
**ごらんこれが”宗谷岬” 北のはずれよ 見知らぬ誰もが指でさす**  
息でくもる窓のガラスふいてみたけど はるかにかすみ 見えるだけ  
**はるか彼方目を凝らし見つめてみても 波の先に樺太か… ?**  
さよならあなた 私は帰ります 風の音が胸をゆする 泣けとばかりに  
**みんなで笑顔 ジェット機に乗って 酒に酔い言葉かわし笑顔になる**  
ああ津軽海峡・冬景色  
**ああああー 利尻 礼文だ ・ 友の会 』**

さよならあなた 私は帰ります 風の音が胸をゆする 泣けとばかりに  
**みんなで笑顔 ジェット機に乗って 酒に酔い言葉かわし笑顔になる**  
ああ津軽海峡・冬景色  
**ああああー 利尻 礼文だ ・ 友の会 』**



心配された12号台風が足踏みして、雨風に打たれることもなく、かがみはら航空宇宙博物館と、初夏の花いっぱい伊吹山を十分に堪能してきました。

友の会の13名に、飯田から妙齢？の女性2名（三浦一星めぐりの会の仲間）が加わって、総勢15名。

いつものことですが、サロンバスの中では、小林節に渡邊さんの名調子が加わって大盛り上がり…。 ⇒



■ 航空宇宙博物館見学（11:15～12:45）

博物館が台風のため15時にクローズされるとのことで、急遽、午後の予定を午前に変更しました。友の会の坂本さんの手配により入館無料サービスを受けました。



↑ 岐阜各務原航空宇宙博物館入口

↑ 川崎 P-2J 対潜哨戒機 海上自衛隊の主力機

○ 技術の粋を目前にして圧倒されました。陸軍第三師団歩兵演習場が1917年に飛行場として整備されたことから、岐阜・各務原における航空機の歴史が幕を開けたそうです。

現在、優れた技術力を生かして、BK117形ヘリコプターやジェット旅客機MRJの機体・部品の製造の他、宇宙部門でも衛星フェアリングや国際宇宙ステーション内の機器を製造しています。



↑ 世界最初の飛行機ライトフライヤー

↑ 丸三式攻撃機

1952年、航空機産業再会 プロペラ機からジェット機→

○ 宇宙への挑戦



↑ 日本人11名の宇宙飛行士  
頑張れ「はやぶさ2」→



■ 伊吹山登山 日本百名山ー標高 1377m 滋賀県最高峰

伊吹山ドライブウェイの終点、スカイテラス駐車場(標高 1,260m)から、“山頂お花畑”を散策 西遊歩道・中央遊歩道・東遊歩道の3つのルートをそれぞれのお好みで…。(13:15~15:00)

ドライブウェイ 17 km→



↑ 展望テラス案内板



↑ 台風の影響で展望はいまいち 琵琶湖は望めませんでした



↓ 山頂 山小屋はガスの中



← 西遊歩道 花いっぱい

中央遊歩道 急坂階段→



伊吹山の植物

伊吹山は典型的な石灰岩地帯であるため、石灰岩地を好む植物が多数見られます。例えば、イブキシモツケ、イブキコゴメグサなど。山頂付近には、高山植物または亜高山性植物と通称されるものが多いです。例えば、イブキトラノオ、グンナイフウロ、メタカラコウ、ニッコウキスゲなど。北方からの分布の西南限となっているものに、グンナイフウロ、エゾフウロ、キンバイソウなど。日本海要素の植物が多数見られます。これは日本海側斜面に発生、または分布の本拠をもつ多雪地帯の植物をいいます。例えば、イブキトリカブトなど。伊吹山は古い山なので、特産種が見られます。伊吹山は石灰岩地という特殊性をもち、また中腹以上がやや高山的な気象条件になるため、残存した種があったり、新種形成が行われたりしたと考えられます。その例として、コイブキアザミ、イブキコゴメグサ、ミヤマコアザミ、ルリトラノオなど。(伊吹山ドライブウェイ・植物分布の特色から)



お花畑(群落)

←シモツケソウ  
メタカラコウ→



● 伊吹山ー山頂お花畑 出会った花々

(撮影:三浦)



↑カワラナデシコ



コオニユリ→



↑メタカラコウ

↑クガイソウ



↑キオン



↑ルリトラノオ



↑オオバギボウシ



↑ヤマホタルブクロ



↑シモツケソウ



↑ドク(イブキ)ゼリ



↑ツルニンジン



↑ウバユリ



↑ツリガネニンジン



ツルアジサイ→



↑シシウド



## 2018 上高地乗鞍キッズキャンプ報告

小林 久雄

スタッフは例年通りのベテラン 9名

男性： 奥原 細萱 松田 滝沢 荻野 小林

女性： 竹原 立花 西川 でした。

8月2日3日天候に恵まれて無事終了出来ました。

4年生5年生6年生の24名が参加しました。

細萱さんの名ガイドで上高地に、6名ずつ「穂高」、「槍」、「常念」、「蝶」に分かれて上高地を散策、小梨平にてお昼後にビジターセンターを見学し、乗鞍 ST に移動。各班毎に部屋の寝具準備、夕食 BBQ や朝食、お昼のカレーライス準備に夜のキャンプファイヤ準備。更には工作で、松田さんに指導いただき「竹細工のカタツムリ」を全員でつくりました。子ども達は工作やお手伝いを積極



的にしてくれました。キャンプファイヤで盛り上がり、ナイトハイクでは火星を見つけたり、バットハウスを見学したりしました。

翌日は乗鞍登山に出掛けましたが、富士見岳に登るにも強い風に悩まされ大変苦労しました。乗鞍 ST に戻り、カレーを美味しくいただき、スイカ割りの後に「思い出の絵日記」を書いて、お片付けです。

天候に恵まれまして、乗鞍大雪渓遊びも満喫し、無事に帰宅となりました。

ベテランのスタッフの皆さん、大変にお疲れ様でした。ご協力に感謝します。



信州大学山岳友の会会報 第31号

発行日：2018年10月16日

発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp